

====本和訳は参考翻訳です。詳細内容は本文最後の原文を参照下さい====

## 新聞発表

### GS1 EPCglobal は、「輸送・物流実証実験計画」 (Transportation and Logistics Pilot Program)の第3フェーズを開始します

「グローバルな輸送・物流実証実験計画」は、GS1 EPCglobal 標準に基づき  
日本とオランダ間で端から端までの可視性を示すでしょう

ブルッセル、ベルギー - ロレンスビル、ニュージャージー 米国 - 2008年11月12日発 -  
GS1の子会社であるEPCglobal社は、本日、「輸送・物流サービス(TLS)産業活動グループRFID(無線自動識別)実証実験計画」の第3フェーズ計画を発表しました。「輸送・物流実証実験計画 3」は、グローバルなサプライチェーンに跨る組織間で、どのようにリアルタイムにイベント・データを交換し、そして日本の第三者物流業者からオランダの流通倉庫まで荷物を追跡するかを示します。サプライチェーンパートナーおよび通関当局は、あたかも自分がサプライチェーンに沿って歩いているかの如く、製品および出荷に関する情報にリアルタイムでアクセスできるでしょう。

「輸送・物流実証実験計画 3」は、東京からアムステルダムへの貿易レーンを使用するサプライチェーンを通して、カートン、コンテナ及びパレットに入った実製品の移動を追跡するEPCISの利用についてテストすることに重点を置いています。EPCISはGS1 EPCglobal標準であり、取引パートナーがサプライチェーンの中を移動する物に関するデータを格納し、アクセスし、通信するために使用するデータ要素の共通セット、コミュニケーション用共通語、および定義済みメッセージセットを提供するものです。それは、「実証実験計画」が目標としているサプライチェーンの可視性の提供との重要な連携があります。出荷に際し税関の確認要件を遵守するために、GS1 GSIN(グローバル出荷識別番号)がUCR(個別貨物識別子)として使用される予定です。EPCタグは固定読取機だけが読むことができます。これは、携帯型読取機を使用することより厳しい挑戦になるでしょう。

パレット・レベルでのアクティブタグの適用と同様に、海上コンテナ上のEPC/RFIDアクティブタグ(拡張輸送機材向け電子タグ(XCAT))及び電子シールタグの使用も、「輸送・物流実証実験計画 3」の枠組み内でテストされる予定です。これらの実験は、輸送機材向け電子タグ及びパッシブ電子シール用標準の開発を推進するために、役立つことでしょう。「UHFクラス1 Gen 2、リーダープロトコル、フィルタリングならびに収集のための適用レベルのイベント(ALE)及びEPC情報サービス(EPCIS)のようなGS1 EPCglobal 標準の使用を通じて、輸送・物流会社、通関当局およびその他の認可された関係者は、サプライチェーンの全体にわたってイベント追跡が可能になります」と、EPCglobal 社社長の Chris Adcock は述べています。

「輸送・物流実証実験計画 3」は、既に行われた第1と第2フェーズの「輸送・物流実験計画」の無事完了による教訓に基づいて構築されています。第1フェーズは、香港 - 日本間のカートンおよびコンテナの海上輸送をするためのパッシブならびにアクティブ両方のUHF EPCタグ使用の有効性を示しました。これに対して第2フェーズは、中国の工場と米国の流通センターとの間で、上海とロサンゼルス港間を移動する品物の可視化を、グローバルなレベルで可能にすることに關する GS1 EPCglobal 標準の効果について実証しました。



「輸送・物流実証実験計画 3」に参加しているパートナーには、Allumis、Canon、Confidex、丸紅/マイティカード、三菱電機とAlien Technologyと日本IBMの共同体、Motorola EMb、NEC、日本通運、NTT、NYK 物流、NXP、Oracle、SATO(UPM Raflatac)、Secura Shield、トッパン・フォームズ、トッパン印刷、Vue Technology のような主要物流、海運、ハードウェア及びソフトウェアプロバイダが含まれる予定です。「輸送・物流実証実験計画 3」を積極的に支援している参加者は、ドイツ、日本、オランダからのGS1 会員法人は勿論のこと、日本の経済産業省、野村総研、もの運び技術協会、アムステルダム及び東京の港湾局等となるでしょう。日本とオランダの税関はこの実証実験計画の公式オブザーバーです。

「輸送・物流実証実験計画の最も重要なメリットは、輸送物流部門のためのグローバル標準を推進することです。強いリーダーシップは重要ですが、しかし会社、政府および団体が現実の実践に基づいた公平で総合的な決定を迅速に下すことができれば、それははるかに良いことです。」と、MTI/日本郵船技術戦略グループ・プロジェクト・マネージャー石澤直孝氏は述べています。

日本の東京からの最初の商品出荷は、2008年12月第2週目に予定されています。4週間という期間に亘って、50個のコンテナがアムステルダムに出荷されることになります。

#### **GS1 EPCglobal 標準について:**

GS1 EPCglobal 標準は、サプライチェーン全体に亘るパートナーの間で、荷物の識別、データ収集及び情報の共有を可能にするユーザー要件に応じるために開発された、業界主導の標準セットです。これらの標準は、EPCglobal 社の枠組み内で開発されます。

#### **EPCIS(EPC 情報サービス)について:**

EPCIS は、荷物がサプライチェーンを通過して移動する時に、その進行を追跡するために使用される標準です。サプライチェーン内の各読取りポイントで共有されるデータは、各読取りの WHAT: 何、WHEN: 何時、WHERE: 何処及び WHY: 何故を提供します。EPCIS は、EPC データの格納、通信および普及にとって必要になる情報サービスを提供します。それは、組織内または組織間のサプライチェーン内で、特定の荷物に関するデータを獲得し共有するための、イベント収集及び照会のインターフェース標準を提供します。

#### **EPCglobal について:**

EPCglobal 社は、非営利の国際的標準化団体GS1の子会社であり、サプライチェーン全体に亘る情報に関する正確で、即時的で、費用対効果の高い可視化を可能にするための業界主導の標準として、電子製品コード (EPC) の世界的な採用を支援します。EPCglobal の詳細については、[www.epcglobalinc.org](http://www.epcglobalinc.org)をご覧ください。

#### **GS1 について:**

GS1 は、サプライチェーン内の効率および可視性を高めるためのグローバル標準及びソリューションの設計と実装に専念する中立の非営利団体です。GS1 は百万を超える企業の支援を得ており、その企業群は日に50億超の取引をGS1システム標準によって実行しています。これによって、世界で最も広く使用されるサプライチェーン標準システムとなっています。GS1 の詳細については、[www.gs1.org](http://www.gs1.org)をご覧ください。

### 拡張輸送機材向け電子タグ(XCAT)について:

TLS IAG の輸送作業部会(Transportation Working Group)は、単一の輸送タグの技術標準化を目指して活動しています。部会の作業を通じて、輸送タイプの定義済みセットが作成され、輸送専用のユースケース・シナリオが構築され、機能要件が集められ、そして新しいタグ名が命名されました。それは輸送機材向け電子タグ(CAT: Conveyance Asset Tag)でした。

タグの機能がはっきりした時、1 つのタグでは全てのユースケース・シナリオを満たすことが出来ないことが、すぐに明らかになりました。基本的なレベルでは、CATタグはパッシブタグであり XCAT タグはアクティブタグです。この切り分けについての最も重大な理由の1つとは、輸送機材に恒久的に取り付けるか、輸送機材から除去可能であるかの概念でした。保守の面から、機材(輸送)の生涯にわたって永久取付けタグが存続しなければならないことが判断され、電池を用いるアクティブタグはその要件を満たさないことが判定されました。

アクティブタグの機能要件は信じられないほど多様であり、このことで部会はオプション要件と絶対必要要件を定義する方向にシフトしました。利用者の要件に基づくオプション機能を内蔵することこそが拡張性があるということは、今や基本 XCAT においては暗黙の了解です。

### パッシブ電子シール・タグ(Passive E-Seal Tags)について:

電子シールは、C-TPAT, ISO 17712 機械式ボルトシールとサプライチェーンに沿ったポイントで読み取られる UHF Gen 2 RFID タグを組み合わせたものです。電子的に封印された貨物コンテナの扉が無理やりあるいは不適切に開けられる時、又は電子シールを不正に変更すると、RFID タグはもはや読むことが出来なくなります。

### GS1 GSIN について:

グローバル出荷識別番号(GSIN: Global Shipment Identification Number)は、1 つの商用オーダーの下で出荷元から目的地へ移動する集約された運送単位の識別を可能にし、毎日何千もの国内および国際的な取引を処理する通関機構のニーズに完全に適合します。これらの取引の大部分は多数のコンテナやパレットその他を含む運送単位から構成され、そして全てが1枚の単一注文書の下で運ばれます。

### UCR について:

個別貨物識別(UCR: Unique Consignment Reference) は、国境を越えた出荷を識別するために 2004 年に世界関税機構(WCO: World Customs Organization)によって公式化されました。UCR の目標は、国際貿易を促進し、税関に効果的なリスクアセスメントのための手段を提供することです。UCR は、輸出業者、運送業者、通関業者及び輸入業者に、国際サプライチェーン内でよりよい情報予測、強化されたセキュリティ、少ない順法コストおよび全面的に改善されたトレーサビリティを提供します。

====以下、原文====

## Transport and Logistics Phase 3 Pilot Program

### PRESS RELEASE



NOVEMBER 2008

## PRESS RELEASE

### **GS1 EPCglobal launches the third phase of the Transportation and Logistics Pilot Program**

***Global Transport and Logistics Pilot Program will show end-to-end visibility between  
Japan and the Netherlands based upon GS1 EPCglobal standards***

BRUSSELS, Belgium - LAWRENCEVILLE, New Jersey – November 12, 2008 – EPCglobal Inc, a subsidiary of GS1, today announced plans for the third phase of its Transportation and Logistics Services (TLS) Industry Action Group RFID (Radio Frequency Identification) Pilot Program. The Transportation and Logistics 3 Pilot Program will demonstrate how organizations across a global supply chain can exchange real time event data and track shipments from the third party logistics provider in Japan to the distribution warehouse in the Netherlands. Supply chain partners and customs authorities will have real-time access to information about products and shipments as they travel along the supply chain.

The TLS 3 Pilot Program focuses on testing out the use of EPCIS to track the progress of physical products in cartons, containers and pallets across the supply chain using the trade lane from Tokyo to Amsterdam. EPCIS is the GS1 EPCglobal standard which will provide a common set of data elements, a common language for communication, and a set of defined messages for trading partners to use for storing, accessing, and communicating data on objects moving in the supply chain. It is a critical link to providing the supply chain visibility the Pilot Program is set to achieve. The GS1 GSIN will be used as the UCR in order to comply with customs identification requirements for shipments. The EPC tags will only be read by fixed readers. This will be more challenging than using handheld readers.

The use of active EPC/RFID (Extended Conveyance Asset Tag (XCAT)) and e-seal tags on sea containers as well as the application of active tags on pallet level will also be tested within the framework of the TLS 3 Pilot Program. These tests will serve to drive the development of standards for conveyance asset tags and passive e-seals. "Through the use of GS1 EPCglobal  
***Press Release – Transportation and Logistics 3 Pilot Program\_V6***

standards like UHF Class 1 Generation 2, Reader Protocol, Application Level Events (ALE) for Filtering and Collection and EPC Information Services (EPCIS), the transport and logistics companies, customs authorities and other interested parties that are authorized will be able to track events throughout the supply chain,” explained Chris Adcock, President of EPCglobal Inc.

The Transportation and Logistics 3 Pilot Program builds on the learnings of the successful completion of the first and second Transportation and Logistics Pilot Programs. The first phase validated the use of both passive and active UHF EPC tags for sea-shipment of cartons and containers between Hong Kong and Japan whereas the second phase demonstrated the impact of GS1 EPCglobal Standards on providing visibility of goods on a global level between source factories in China and distribution centers in the US, flowing through the ports of Shanghai and Los Angeles.

The partners participating in the Transportation and Logistics 3 Pilot Program will include major logistics, shipping, hardware and software providers such as Allumis, Canon, Confidex, Marubeni/Mighty Card, Mitsubishi Electric in collaboration with Alien Technology and IBM Japan, Motorola EMb, NEC, Nippon Express, NTT, NYK Logistics, NXP, Oracle, SATO (UPM Raflatac), Secura Shield, Toppan Forms, Toppan Printing, Vue Technology. Additionally, active participants supporting the Transportation and Logistics 3 Pilot Program will be the Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan, Nomura Research Institute, Monohakobi Technology Institute, the port authorities of Amsterdam and Tokyo as well as the GS1 Member Organizations from Germany, Japan and the Netherlands. The customs of Japan and the Netherlands are official observers of the Pilot Program.

“The key benefit of our Transportation and Logistics Pilot Program is that it fosters the global standards for the transport and logistics sector. Strong leadership is important but it is much better if companies, governments and organizations can quickly make a fair and collective decision based on real practice”, explained Naotaka Ishizawa, Project Manager, Technical Strategy Group of MTI/NYK Line.

The first shipment of goods from Tokyo, Japan is scheduled to depart in the second week of December 2008. There will be 50 containers shipped to Amsterdam over a 4 week period of time.

Notes to the Editor:

**About GS1 EPCglobal Standards:**

GS1 EPCglobal standards are a set of integrated industry-driven standards which have been developed to meet user's requirements enabling the identification of objects, data capture and sharing of information among partners throughout the supply chain. These standards are developed within the framework of EPCglobal Inc.

**About EPCIS (EPC Information Services):**

EPCIS is a standard used to track the progress of objects as they move through the supply chain. The data shared at each read point in the supply chain provides WHAT, WHEN, WHERE and WHY of each read. EPCIS provides the Information Services necessary for the storage, communication and dissemination of EPC data. It provides standards event capture and query interfaces for obtaining and sharing data about unique objects in the supply chain within and across organisations.

**About EPCglobal Inc:**

EPCglobal Inc is a subsidiary of the global not-for-profit standards organization GS1, and supports the global adoption of the Electronic Product Code as industry-driven standards to enable accurate, immediate and cost-effective visibility of information throughout the supply chain.

For more information about EPCglobal Inc, visit: [www.epcglobalinc.org](http://www.epcglobalinc.org)

**About GS1:**

GS1 is a neutral, not-for-profit organisation dedicated to the design and implementation of global standards and solutions to improve the efficiency and visibility in supply chains. GS1 is driven by more than a million companies, who execute more than five billion transactions a day with the GS1 System of Standards. This makes it the most widely used supply chain standards system in the world.

For more information about GS1, visit: [www.gs1.org](http://www.gs1.org)

### **About Extended Conveyance Asset Tag (XCAT):**

The Transportation Working Group in the TLS IAG has focused on a technology standard for a single conveyance tag. Through the work of the group, a defined set of conveyance types was created, transportation specific use case scenarios were built, functional requirements were gathered, and a new tag name was produced: The Conveyance Asset Tag (CAT).

As the tag functionality flushed out, it quickly became apparent that one tag would not meet all use case scenarios. At the basic level, the CAT tag is a passive tag and the XCAT an active tag. One of the most significant reasons for this separation was the concept of permanent attachment to the conveyance vs. removable from the conveyance. It was determined that for reasons of maintenance, a permanently associated tag must last the life of the asset (conveyance) and it was determined that active tags, with batteries, would not meet that requirement.

It was also determined that functionality requirements of an active tag were incredibly diverse which moved the group in the direction of defining optional and mandatory requirements. It is now implicit in the base-line XCAT that it be extensible to incorporate the optional functionality based on user requirements.

### **About Passive E-Seal Tags:**

E-seals combine C-TPAT, ISO 17712 mechanical bolt seals with UHF Gen 2 RFID tags that are read at points along the supply chain. If the e-seal is tampered with when doors of e-sealed freight containers are forcibly or improperly opened the RFID tag can no longer be read.

### **About GS1 GSIN:**

The Global Shipment Identification Number enables the identification of grouped transport units travelling under one commercial order from origin to destination and perfectly suits to the needs of Customs Organizations which day after day process thousands of national and international transactions, most composed of multiple transport units containing a number of containers, pallets, and more, all travelling under one single purchase order.

**About UCR:**

The Unique Consignment Reference (UCR) was officialised by the World Customs Organization In 2004 in order to identify cross-border shipments. The goal of the UCR is to facilitate international trade and to provide Customs with a means for effective risk assessment. The UCR provides exporters, carriers, customs agencies, and importers with better predictability of information, enhanced security, reduced compliance costs and overall improved traceability in international supply chains

--END--